



神戸市シルバーカレッジ情報誌 2022 年 5 月第 210 号



「2022 年の春」 KSC 写真クラブ 生環 27 期 田畠 良和

目次

2	前田 潔 新学長 着任のごあいさつ
3	服部 祥子 前学長 退任のごあいさつ
4	第 29 期生 入学式
6	新入生の入学感想
8	第 26 期生 卒業式
10	サークル だより
12	グループわ だより、ジョイフルクッキング
13	文芸サロン 俳句、川柳、応募作品
14	歓送交流会、トピックス ケナフの会、施設利用委員会
15	事務局だより、図書室だより、編集後記
16	Photo News (歓送交流会・卒業式・入学式)

情報誌編集委員会では、カレッジ内外の活動も含めて写真・記事の投稿をお待ちしています。

「爽風」への情報提供・ご意見は、次のホームページからお寄せください。

<https://ksc-sofu.net/> スマホからは右の QR コードを読み取ってアクセスできます。



【新学長のごあいさつ】 本学で自己実現と社会貢献を!!

神戸市シルバーカレッジ学長 前田 潔



老年期精神医学、認知症を専門分野とする臨床研究者、医学博士

神戸大学大学院医学研究科修了

神戸大学大学院医学研究科教授 神戸学院大学教授を経て、神戸大学教授

神戸市認知症対策監、神戸学院大学総合リハビリテーション学部特命教授

皆さま、こんにちは。この4月から学長を務めています前田です。

少し自己紹介をさせていただきます。私は精神科の医師です。50年間精神科医をしています。専門分野は高齢者の精神疾患の診断・治療です。高齢者の精神疾患とは認知症（dementia）、うつ病（depression）、妄想性障害（delusion）、せん妄（delirium）などです。これらの英語の頭文字をとって4Dsとも言います。

私がこのような専門性を選んだ理由とは言いますと、私は若いころから高齢の患者さんに感情移入しやすかったということが出来ます。なぜ感情移入しやすかったかと言いますと父方の祖母の影響かもしれません。祖母はいつも真っ黒になって働いていました。貧しい中で夫に仕え、子どもを育て、ひとに嫌がれることは言わず、いつも控えめにふるまっていました。報いられることの少ない人生でしたが、最後は認知症でした。四六時中窓から半裸で大きな声で叫んでいました。人生の最後に高齢者が認知症になって過酷な生活を送っているのに接して、私はこのひとたちの力になれたらと考えました。

キャリアのほとんどを大学等の研究教育機関で過ごしてきました。大学医学部精神科教室、県立認知症診療研究機関、私立総合大学リハビリテーション学部において高齢者の精神疾患の診療を行う傍ら教育・研究を行ってきました。また神戸市から認知症対策監という辞令をいただき、神戸市の認知症政策の策定・実施を手伝っています。認知症「神戸モデル」というのをご存知ですか。神戸市民が認知症の診断を受ける際、かかる費用の自己負担部分は神戸市が負担するというものです。また認知症と診断されたのちに、認知症のひとが間違えて他人に損害を与えた場合、その損害賠償のために神戸市が損害保険を創設し、市民は自己負担なしに加入できるという制度です。この認知症「神戸モデル」は平成31年4月に制定されましたが、私はこの制度の制定に関わってきました。

認知症初期集中支援推進事業というのをご存知でしょうか。国の事業ですが、神戸市は全国に先駆けてこの事業を市内で実施しています。いろいろな事情から医療や介護を受けていない地域の認知症のひとの自宅を、看護師や福祉関係者が訪問して、医療や看護に繋がれようというものです。神戸市内でも、多くは独居で認知症のために電気や水道の支払いがうまくできずに止められ、食事摂取や服薬ができずにいる人が多いです。着替えや入浴もできず、ゴミ屋敷状態のなか不潔な環境で寒さにふるえ、暮らしています。そのような人の自宅を訪問して医療機関の受診に同行したり、あんしんすこやかセンターを手伝って介護サービスの利用に繋がるとするものです。この事業にも私は専門医の立場で関係しています。

そんななか、神戸市シルバーカレッジを手伝わないかと声がかかりました。同時に服部祥子前学長らがまとめられたご本「シニア世代の学びを社会に活かす」（ミネルヴァ書房）が送られてきました。その本を読んで私は是非仲間に入れてもらいたいと思いました。シニア世代に生きがいを見つけるお手伝いをしたうえで、世の中の支援を必要としている人たちのために活動するという、シルバーカレッジの目的に感動したのです。

私は現在、私立総合大学の寄付講座の教員をしていますが、その寄付講座の名称は「認知症のひとにやさしいまちづくり」研究講座と言います。認知症のひとが尊厳を保って生活できるまちづくりをめざすための研究をしようという講座です。そして認知症高齢者が大切にされるまちは、そうでない高齢者も大切にされるまちだということです。

神戸市シルバーカレッジは、シニアと呼ばれる年齢になって、自分はこのさきどのような人生を送りたいか、送るべきか、皆で知恵を出し合い、それを実践していく場です。あなたの人生にはまだまだたくさんのやりたいこと、やらなければならないことが残っています。本学のモットーは「自ら学習し、その成果を他者に役立てる」の意です。そこでは脚本を書くのも、演出するのも、主演もあなたです。

学長退任のごあいさつ

神戸市シルバーカレッジ前学長 服部 祥子



私は初代学長今井鎮雄先生のご逝去の後、2015年2月に2代目学長として就任いたしました。以来7年間、シルバーカレッジと共に歩かせていただきました。

その間、カレッジに足を踏み入れる都度、学生の皆さまの生き生きとした学びや活動に触れ、身も心も元気と喜びをいただきました。

来年設立30周年を迎えるシルバーカレッジを紹介するために、関係者と共に執筆した本を1月に刊行しました。タイトルは『シニア世代の学びを社会に活かす～神戸市シルバーカレッジでの学習と社会貢献』です。これは人生100年時代の現代、知力も体力もまだ十分充溢しているアクティブなシニア世代の学びの意義を考え、当シルバーカレッジが今後の日本社会における高齢者大学の先駆的なモデルになり得るという自負を持って書いたものです。在学生・卒業生の皆さまにはぜひ手に取っていただきたいと思います。本を開くとページのそこかしこからカレッジライフの光景が生き生きと浮かび上がってくること必定です。

今回本を書くにあたり、シルバーカレッジの歩みを辿ってみたことは味わい深い体験でした。例えば、開学一年余で遭遇した阪神淡路大震災の折、休校になった学舎に学生達が集まり、車座になって自分たちに何が出来るか真剣に話し合い、自主学習とボランティア活動を始める決意をする姿は、とても感動的でした。そして実際に外部講師の協力と共に学生自身も講師となって自主的に学習を続けること、自らも被災者でありながら出来る限りの社会貢献活動を積極的に実践することが開始されました。そのなかで学生達自らが生み出した「再び学んで他のために」という言葉はやがてスクールモットーになり、今も脈々と受け継がれています。

また1期生を始めとする代々の卒業生が力を合わせて立ち上げ育ててきたボランティア活動は「特定非営利活動法人社会還元センターグループわ」として四半世紀の歴史を刻んでいることもカレッジの誇りです。

カレッジの学習の中で特筆すべきは本学固有のグループ学習でしょう。これは最終学年1年をかけて、テーマの設定から最終まとめまですべてグループで決めて進める協調学習です。ときに不協和音が生じることがあっても、自己主張はしても妥協点を見付けるといふ大人の叡智が発揮され、それぞれのグループは最終目標に向けて相互に助け合う姿勢を見出します。今年すべてのグループ学習の発表を聞かせていただき、各グループが力強い絆で結ばれ、豊かな成果を上げておられるのを如実に感じ、心より嬉しく誇らしく思いました。

どうぞ皆さま、これからも新学長の許、再び学ぶことによる上質の知の獲得と、他と共に生きる人間的豊かさをカレッジで身につけ、おおらかに元気にご活躍下さい。



神戸市シルバーカレッジの本！『シニア世代の学びを社会に活かす』

本年3月末に退任された服部前学長の編著による神戸市シルバーカレッジの本をご紹介します。

本書は第1章の「シニア世代の新しい人生モデルを考える～神戸市シルバーカレッジの存在意義と魅力～」からスタートし、カレッジの軌跡と現在、卒業生により組織されたグループわの運営システム・社会貢献など、これまでの実践的な例示が、本書を手にした方に「これからの人生100年時代に向けたヒント」を提示しています。情報誌「爽風」をご覧の皆さまに、カレッジの成り立ち～先輩たちが実践されてきた社会貢献の

歴史・考え方など、本書に触れていただくことで、これからの人生の軸足が少しでも“人(他)のために”、となればと願っています。

本書の構想は、2年前に服部前学長の下に原稿を持ち寄った方々：カレッジ開校前の基本構想に携わった当時の神戸市担当者、カレッジ運営委員・事務局、グループわ 理事経験者等の全部で16名、それらを服部前学長ご自身の思いを込めた原稿も含めて取りまとめた集大成となっています。カレッジ関係者にはぜひご一読いただきたい1冊です。なお、今回特筆すべきこととして、本書の印税の全額を服部前学長より、グループわ にボランティア活動運営資金として、寄付いただいております。

このため、本書はAmazon等の通販、一般書店でも販売されていますが、グループわ では、カレッジ生・OBに対して割引価格で販売しています。

グループわ での販売がボランティア活動資金となりますので、ご協力いただければ幸いです。

記：NPO法人社会還元センターグループわ 理事 辻本 憲和

シルバーカレッジ第 29 期生 入学式 2022 年 4 月 8 日

令和 4 年度の神戸市シルバーカレッジで第 29 期生 312 名の入学式が執り行われました。入学式は新型コロナウイルスリスクを縮減するために、入学生他一部に限定されて、また時間短縮されたかたちでおこなわれました。これから 3 年間新たな気持ちで学園生活を楽しまれることと思われます。

【式辞】 神戸市シルバーカレッジ学長 前田 潔
みなさん、このたびはご入学おめでとうございます。

本年、当シルバーカレッジは 312 名の新しい友を迎えることとなりました。みなさんを迎え、われわれシルバーカレッジ関係者はこのうえない喜びにあふれております。



気持ちの高ぶりを抑えることが難しいほどです。皆さまもまた喜びに胸が高鳴っているのではないのでしょうか。新しい経験、新しい出会いを期待して入学されたことと思います。

先日、神戸新聞のある記事が目にとまりました。「大学のあるまち」という題の小論です。その中で、市街地の周りを走行する JR の山手線と大阪環状線を挙げて、山手線の中にあって環状線の中に入らないものはなにかと問いかけています。みなさんはなんだと思いますか。答えは大学です。山手線内の大学の集積度は環状線内のそれとは歴然とした差があるというものです。それが東京と大阪の活力の違いのひとつだということです。

令和 2 年度の大学数を都道府県別で比較しますと、1 位は東京都、2 位は大阪府で、大阪府内には大学が 55 あります。3 位は愛知県、4 位北海道で、5 位に兵庫県が来ます。では東京都にはいくつ大学があると思いますか。大阪府で 55 校ですから東京都には 70 校？あるいは 80 校？いえ 143 校あります。大阪府の 2.5 倍以上です。

以前、姫路の市長さんと話をする機会がありました。30 年近く前ですが、その際、当時の姫路の市長さんは姫路市との比較の中で神戸市を意識されているようでした。市長さんから神戸市と姫路市の差はなんだと思いますかという話が出ました。市長さんは、大学の数の違いなんです、と言いました。神戸市にある大学の数と姫路市のそれには大きな違いがあり、それが都市の発展に関係しているんですよ、とのことでした。ちなみに令和 2 年現在を比較しましても、神戸市には大学が 21 ありますが、姫路市には 3 校しかありません。

このように都市にとって大学があるということは都市の活力という点で重要なことのようにです。大学があると学生、教員が集まってきます。学生用マンション、飲食店、衣料品店、書

店などが大学の近くに増えます。大学、高等教育機関の持つエネルギー、学生と教員による研究教育活動は大きな熱量を発散し、地域を活性化します。

本シルバーカレッジについても約 800 名の学生が在籍します。登校時にキャンパスを見ていますと、学生の運転する車が次々とやってきます。バスからもたくさんの学生が降りてきます。また昼休みの時に学生が作り出す喧騒、賑わい、これにも驚かされます。

キャンパスのなかで学生同士あるいは学生と講師が作り出す化学反応がさまざまな変化、さまざまな結果をもたらしてきました。そのダイナミズムが学生自身を変化させ、地域を変え、まちを活性化させます。学習や教育は世界を変えていきます。ここに集まったシルバーカレッジの学生も同様です。

この 2 年間、ほぼすべての現代人は初めて経験する新型コロナウイルス感染症によって制限された生活を送らざるを得ませんでしたね。集まって話あったり、飲食したり、遠隔地に出かけることを制限されてきました。リモートワークで一緒にお昼を食べて、仲間内のちょっとした話題で盛り上がったり、声をあげて笑いあうということが禁じられました。

外出が制限され、家族や友人に会うこともままならず、生活が単調で変化や刺激のないものになってしまいました。そうして皆は気づきました。人と人とがつながっているということが人間の生活の中でいかに意味のあるものであったかということに、コロナ禍がもたらした数少ない気づきのひとつです。

当シルバーカレッジへの入学目的が多くの新たな人と出会い、変化および刺激のある生活を求めたものであった方も多くいられたと思います。

これから、たとえこのパンデミックがしばらくは収束しないとしても、知恵と勇気で、豊かな、みのある学生生活を実現していきましょう。



入学式での校歌斉唱

パンデミックを乗り越えて、学習することで自らを確立し、他者とつながりを強め、地域、他者に貢献してください。

これをもって新入学の皆様にご贈ることばとさせていただきます。

【歓迎のことば】

在校生代表

美工 27 期 河合 信夫

29 期の皆さん、ご入学おめでとうございます。私は 27 期美工専攻ですが、思い起こすと 2 年前の 4 月コロナの発生により入学式は中止となり、そのまま 9 月まで休校となりました。せっかく入学したのに不安の中で 9 月の始業を迎えたことを思い出します。

従って、私たちは 1 年半の経験しかありませんが、なんとか半年の遅れを取り戻そうと事務局の皆さんのご努力のもとカレッジライフに取組んできました。その中で感じたことを皆さんに少しお話ししたいと思います。ご参考にしていただければ幸いです。



学生の皆さんはさまざまな人生体験をされ、それぞれが異なったスキル、人生観をお持ちです。40 年、50 年と同じ職場、同じコミュニティで生活すると、同じような人生観の仲間との付き合いが多くなってしまい、いつの間にか居心地はいいが刺激のない生活になっていたのではないのでしょうか？夫婦生活も同じですが・・・ シルバーカレッジにはさまざまな異なった人生経験を持った多才な仲間たちがいます。新鮮で刺激的な出会いがあります。そのためには受け身でなく積極的にカレッジライフに参画することです。授業は 3 学期で原則週一回＋アルファ（夏、冬、春休みがあります）皆さんはおそらく、そのうちに物足りなく感じるでしょう。

ではどうするか？まず、クラス内での役割分担、クラス代表や各種委員には積極的に手を挙げる。学園祭、ジョイラックデイなどイベントにも参加し企画・運営に携わることで、個性豊かな人々との出会いを体験し、感動と活気を思い出させてくれます。さらには、ボランティアグループ・クラブが多数あります。多い人は一人で 3～4 のグループに参加しています。コース以外の新しい学び・出会いの場であり、学生自らが企画・運営をしています。皆さんのこれまでのスキルが活かされることも多いでしょう。

シルバーカレッジは市中のカルチャースクールとは違います。ぜひ、学生にもどって、受け身でなく積極的に自らが活躍する場とすることで、若返りましょう。皆さんの奮闘を期待しています。我々もあと一年頑張ります。

【新入生代表あいさつ】

新入生代表

健康ライフ 29 期 能 喜栄子

ごあいさつ申し上げます。しあわせの村の咲きほこる花々に迎えられて本日、令和 4 年度の神戸市シルバーカレッジの入学式が開催されました。

先の見通せないコロナ禍の中、このような立派な式典を開催してくださいました神戸市シルバーカレッジの全ての関係者の皆さまに厚くお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。



さて、入学の動機はここに集いの新入生の数だけあるものと思いますが、私は

- ・生きがい
- ・仲間との出会い
- ・ボランティア活動で地域社会に貢献する

の 3 つを動機といたしました。

「ボランティア」という言葉には「奉仕者」という意味もあり一方的に他者に与えるもののように受け取られますが、私自身地元の子供たちとのよさこい踊りのボランティア活動を通じて実感したことは、「ボランティア活動」は決して与えるだけの一方通行ではなくボランティアをする方も受ける方も互いに幸せを与えることのできる相互交通であるということです。

私は、これからのシルバーカレッジでの学びの成果を今後のボランティア活動にも大いに生かしていきたいと考えています。

私たちは、これから 3 年間、各コースで諸先生方の授業を受けながら専門知識や技能を習得していきます。

健康に留意しながら一緒に学ぶ仲間達と励まし合って学校生活を楽しみたいと思っています。

そして学んだことをいろいろな活動を通じて周りに、また地域社会に還元していけるように日々励んでいきます。諸先生方におかれましては、これからのご指導ご鞭撻をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

29 期新入生に入学の感想をききました

健康ライフコース

寺澤 新二

寝たきりの母親が、父の元へ旅立ちました。

「コロナ禍の 冥土の道は うら寂し

犬と子供に 見送られ発つ」

入学する目的の柱を失い、このまま入学するか、それとも仕切り直すべきか。どうしたものか思案の日々。

「あなた老人には、もう後が無いんだから、今やらなくていつやるのよ」

「お父さんには、もう先が無いんだから、下手な鉄砲も数撃ったら---人生は博打！」

それからしばらくして前期高齢者予備軍は、家族の心温まる言葉に背中を押され、カレッジライフの第一歩を踏み出したのでした。



丸山 榮子

2020 年 3 月、1 年生の時に突如として起こった「コロナ」と言う、阪神・淡路大震災以来の激震で休校！ 9 月からのリモート講義と間隔を大きく開けてのカレッジホールでの学習再開。当たり前と思っていた学生生活が大きく様変わりしました。いろいろな規制が有った中でも、楽しく充実した 3 年間の学園生活を終えました。今も続くコロナ禍の中、自分の気持ちを前向きにもう一度新たな気持ちで学びたい、大好きな学舎の前に広がる大きな空と風景を味わいたいと再入学を決めました。

国際交流・協力コース

越智 勇人

本年 3 月末で会社勤めが終わり、第二の人生をどう過ごすか、何をするか！ 漠然とした気持ちのなか、趣味と友達作りを目的に、シルバーカレッジに応募しました。

幸いに希望の「国際交流・協力コース」に入学でき、初めての授業では班内の自己紹介で、これまでの経験や体験を伺い、色々な人生を過ごして来たメンバーの話を伺う事ができました。同じ目的を持った 61 名のクラスメートと、授業や趣味を通して仲間づくりと新たな趣味作りで豊かなカレッジ生活を送りたいと思います。



杉 花帆

人生 100 年時代に「余命 10 年」という作品と出会い、健康寿命を伸ばし、一期一会を大切に生きたいと思いました。微力ながら、国内外で国際交流・協力を携わってきま

たが、自分の知らない角度から見つめ直してみたいと思い、入学させていただきました。

文化人類学とスポーツ講座を受講しました。豊富な知識とユーモアたっぷりの先生方の授業は簡潔明瞭で、いつの間にか終礼時刻となっていました。クラブ勧誘をされていた先輩方も同じ班の方々もフレンドリーで安心しました。これからもっと多くの方々と交流し、充実した 3 年間を送りたいです。

生活環境コース

山内 利夫

私のシルバーカレッジ入学の主な動機は、健康づくりです。早速、今日（4/13）テニスクラブのお試しの練習に参加しました。日中は夏日で、いい汗をかき、午後 4 時まで練習に参加し、その後、徒歩（約 40 分）で帰宅しました。



シルバーカレッジの印象は、改めて、「人それぞれ」と感じました。そんな自分も極めてマイペースで、他人から見ると随分、身勝手に映るのかも知れません。せっかくクラス代表に選んでいただいた事を前向きにとらえて感謝し、少しでも皆さまのために役立つよう心掛けたいと思います。

東 伸子

最近何もやる気が起こらず、コロナの事もあり家にこもっていました。夫から KSC に入って新しい仲間作りや、やりがいを見つけたらどうかと勧められ、新たな気持ちで始めてみようとして申し込みました。

生環コースを選んだのは、各地で言われているプラスチックゴミや自然破壊、温暖化による環境変化などの問題に、少なからず関心を持っていたからです。また、私の生まれ育った故郷も過疎化が進み、限界集落に近づいているので、何とかならないかと思っています。

カレッジで色々なことを学んで、少しでも自分で何か出来ることがないかを、見つけたいと思います。これからの学生生活を楽しみにしています。

美術・工芸専攻

矢口 恵美子

花と緑の美しいあわせの村で今年度のシルバーカレッジがスタートしました。仕事も一段落ついたので自分のために時間を使いたいと思い、応募し入学することができました。カレッジの先輩たちはみなさんいきいきとした表情をされていて、こちらのテンションも上がります。また美術・工芸のクラスメートのみなさんも明るく元気で“さあやるぞ”という空気感でいっぱいです。私もひっぱられています。

やる気、元気、できればのんきにいっしょに 3 年間がんばることができればうれしいです。

諫山 一彦

つい先月3月31日に退職し、
念願のシルバーカレッジに入学する
事ができました。

難関な美術・工芸コースに入学
できた事に感謝しています。子ども
の頃から、図工、美術が苦手でこ
の歳になって苦手意識を解消しよ
うというのが入学の動機です。音
楽は昔から好きで現在も楽しんで
いますが、何か残るものがなく、自分の作品が残せればとの
思いもあります。新たな仲間とワイワイ楽しくやっていきたい
と思っています。



音楽文化専攻

前原 吉雄

シルバーカレッジへの入学動機は、元職場の先輩が園芸
専攻に入学されていて、その方から学園生活の話を聞き、
楽しそうだなと思い好きな音文専攻に一浪で入学しました。
入学早々5月の歓迎交流会で一年生全員の合唱を披露
してくださいと言われ……悩みましたが、先輩の適切なアド
バイス、クラスみんなの絶大なる協力のおかげでなんとか本
番には間に合いました。

これからも多々悩むことがありますが、無理せず楽しく学
園生活を送れることを切に願う今日この頃です。

上藤 敦子

退職したら何をしようかと考えていた時にKSCを知り、入
学すれば見つけることができるのでは、そして地域活動を知
ることができるのではと思いました。じゃあ、コースは音楽が好
きだから音楽文化かなあ、これが入学動機です。班分けや
ホームルームなど懐かしい言葉を聞くだけで楽しかった学生
時代を思い出して若返った気分でした。しかし、何も分からな
い中でスピード感をもって対応すべきことが多々あり、あたふ
たとしています。

クラス皆でゆったりした気分でメリハリをつけつつも和気あい
あいと、合唱や合奏で音を合わせることを楽しみにしていま
す。またクラブ活動などを通して新しい何かを習得すること、
自分の経験あるものを楽しむことで充実した学生生活にしたい
と考えています。

園芸専攻

増田 高子

コロナ禍で生活が制限される中、花を育てたり眺めたりす
るだけで、とても癒されました。どうして植物は人の心を癒して
くれるのかと、園芸に深く興味を持ち入学しました。入学した
ら、思った以上に大変で、生活も忙しくなりました。でも初め
てのバス通学にワクワクしています。不安もありますが生き生
きと活躍している先輩たちをみて、クラブも決めました。先日、

二十日大根を植える実習があり、
これからの発育が楽しみです。園芸
が好きな34名の皆さんと協力し
て、感染予防をしながら、多くのこ
とを学びたいです。今、この瞬間をひ
たすら楽しんで実りある3年間にし
たいと思います。



戒居 宗春

昨年12月末に仕事を辞め、毎日が日曜日となりました。
これから何かをするにも、これまで、会社人間で嫁さんに任せ
っぱなしで地域との交流等もなかったので、どうすれば良いの
か考えていた時にシルバーカレッジの事を知り、学び直すのも
よいかと、園芸は自分でもできるのではと思い入学しました。

授業初日から種まき実習も行っています。グループで和気
あいあいとした中で、授業
(実習)を受けていますが、こ
れからは忙しくなり大変で
す。同級生34名のみんな
さんと楽しくカレッジライフを
3年間送りたいと思います。

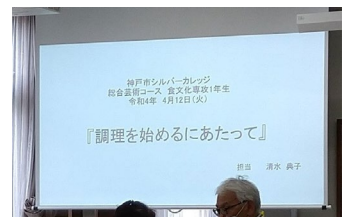


食文化専攻

臼井 正司

学生時代、会社の新人時代と賄い付き寮生活、その後
は奥さんに任せきりと、自分で食文化を考えることなく、あつ
と言う間に、3回目の定年を迎えてしまいました。本日、食文
化最初の講義を受けて、食中毒など食の安全についてとか、
「さしすせそ」に順序の意味があるとか、知見を新たにしまし
た。また、手洗い実習で、汚れがなかなか取れないことには
びっくりしました。

包丁も持ったことない、知
らないことばかりと、先が思
いやられるのですが、早々に
LINE 連絡網が構築される
など、楽しいクラスメートに恵
まれ、3年後にはさまになっていたい、と思っています。



小林 佳代子

約30年臨床検査技師として勤務した病院を退職する
にあたり、興味のある『食文化』を学びたいと、隣家の孫4
人に相談したら大賛成でした。

夫から新婚当時「実験みたい」と言われた料理も、40年
も経つと目分量で適当です。基本からプロの技まで学びたい
と入学したところ、クラスの半数が向学心に燃えた男性達で
した。刺激を受けて笑えて、楽しく学習できそうなクラスです。
授業やクラブ活動等の学生生活、孫達と共有できる話題も
増え、毎日ワクワクして「学びの喜び」を伝えていきたいと思
います。

シルバーカレッジ第 26 期生 卒業式 2022 年 3 月 23 日

新型コロナウイルス感染症対策のまん延防止等重点措置は 3 月 22 日に解除されましたが、引き続き感染再拡大への十分な警戒が必要とされ、家族、来賓、在校生が参加できない卒業式となりました。しかし卒業生は皆、晴れやかな表情で卒業式は執り行われました。

【式辞】 神戸市シルバーカレッジ学長 服部 祥子



26 期生の皆さまご卒業おめでとうございます。3 年間の日々のご努力をたたえ、心よりお祝い申し上げます。

思えば皆さまの学生生活はコロナ禍という、考えてもみなかった出来事があり、平和な学びの日々が試練と困難の中に置かれました。シルバーカレッジも休校を余儀なくされ、学業が再開されても対面式からオンライン形式の授業に移行し、日々の生活も、消毒、換気など厳格なルールが敷かれました。学生の皆さまはこのような変化に応じ、感染症対策にも積極的に携わっていただき、シルバーカレッジは日常に大きな支障をきたすことなく今日に至りました。しかしながら何より楽しい学友同士の出会いや集いの機会が大幅に減じ、グループ学習のフィールドワークもままならず残念な思いをされたことと思います。そのような中でもクラブ活動やボランティア活動を行い一人一人が本学のスクールモットーである「再び学んで他のために」を実践いただいた 3 年間でした。

さて私はこの 3 月本学の学長を辞任することとなり、先日の最終講義は皆様もネット配信で聴いてくださったことと思います。

その時のテーマが「シニア世代の学びを社会に活かす」というものでした。これは本年 1 月に刊行しました本のタイトルで、シルバーカレッジの各所適任の方に書いていただいたみんなで作った本です。

この本の編著の過程ではシルバーカレッジの歴史をたどる大変楽しい体験をさせていただきました。この本は神戸市が 30 年前にこれからの超高齢化社会を見越し、神戸市高齢者のための生涯学習機関を企画構想し設立をしていくという誕生物語から始まります。シルバーカレッジのすべてを書きしるし

たこの本を、卒業後もお手元に置いて折に触れてご覧いただけると懐かしいカレッジライフが本の中から浮かび上がってくると思います。

私がシルバーカレッジでなによりも心ひかれたことは、草創期から守ってきた福祉文化のスピリットです。初代学長の今井鎮雄先生はこのカレッジは単なる老人学校ではなく、壮大な社会実験の場であると語られました。

今井先生のおっしゃった福祉文化とは、今までの人間の自分本位の生き方が環境破壊などのさまざまな社会問題を引き起こし、生活を脅かすようになってきた中で、そうした社会を変える為、一人一人が自分に与えられた力とチャンスを活かしてより良く生きること、そして他者を活かし他者と支えあうという生き方を実践し、これら二つのことを大切にするスピリットをもつ文化のことです。

また社会実験とは、このような福祉文化を大切にする社会を作っていくことと、その為の人材を育てていくことです。かつて阪神淡路大震災のときに多くの学生が自ら被災者でありながらボランティア活動に励みました。これは福祉文化を体現した姿でまさに社会実験の成果の現れだったと思います。その時に学生から生まれてきた「再び学んで他のために」という精神は福祉文化の神髄を示すものであります。

社会実験のゴールはまだまだ先のことだと思いますが、26 期生を含めて 8,000 人以上の卒業生の一人一人がこの社会実験に参加し、一步一步前進させる歴史を刻んでいただいたことに心から誇りと喜びを感じます。どうぞ卒業生の皆さまが本学で学んだことを誇りにになり、本学で得たことを活かして明日からの日々を健康で豊かなものになさいますよう心より祈っています。

卒業生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。



【送辞】 在校生代表 音文 27 期 三木 享

26 期生の皆さまご卒業おめでとうございます。

3 年間のカレッジ生活を終えられ、本日まで卒業の日を迎えられたことを、在校生一同こころよりお祝い申し上げます。

振り返ってみますと、26 期生の皆様は、コロナ以前のカレッジライフを知る最後の学年です。入学当初から、仲間づくりや諸活動に、積極的に取り組めたことと存じます。そして、コロナへの対策を図りながらクラブ活動、ボランティア活動を中心に、進めていく役割を担われました。活発に活動され常にリーダーシップを発揮され、われわれを引っ張っていただき、多くのことを学ばせていただきました。

カレッジでの 3 年間はいかがでしたでしょうか。

コロナの影響はありましたが、楽しく、忙しく、苦労した、あつという間のそして充実した 3 年間ではなかったでしょうか。今後は、次第に以前のように開かれた学園祭、学習発表会になっていくと思われます。卒業されましても、そういう機会にぜひともお越しください。そして、カレッジで巡り合った友人との絆を生涯の宝として、実りの多いシニアライフをお過ごしください。

最後に卒業生の皆さまのご健勝とさらなるご発展を心よりお祈り申し上げ、在校生からの送る言葉とさせていただきます。



【答辞】 卒業生代表 音文 26 期 廣瀬 和孝

今日は、私達神戸市シルバーカレッジ第 26 期生 260 名のために、このような心に残る卒業式を挙行していただきましたことを、卒業生一同心よりお礼申し上げます。

思い起こせば 3 年前、ここカレッジホールで入学式を迎えた時には、まさか 2 年以上もマスクを着けたままになるとは想像もできなかったことです。半年にわたる休校は言うに及ばず、24 期生の卒業式や 27 期生の入学式、それにカレッジ最大のイベント学園祭までもが中止になるなど、これまでに経験したことのない試練でした。入学した時からずっとマスクをしたままで、新型コロナウイルスとの戦いを強いられている在校生の皆さんには、1 日も早い完全な終息が訪れることを願わずにはいられません。

そんな中でも、私たちはそれぞれの分野で専門知識や技能を習得するとともに、決してお金では買えない友情や信頼、思いやりといった大きな財産を手にすることができました。

私たちがこうしてそれなりの成果を作り上げ、無事に卒業できるのは、ひとえに諸先生方の熱心なご指導と、事務局の皆様の親身になってのご支援があつてのことと、心より感謝しています。本当にありがとうございました。

老い先百歳まで、まだまだ長い道のりの私たちは、「再び学んで他のために」という建学の志を改めて心に刻み、それぞれが社会とのかかわりを大切にしながら、充実した日々を生きて行こうと思います。

栄えある神戸市シルバーカレッジを卒業する誇りと喜びを胸に、皆さまのご健康と、我が神戸市シルバーカレッジの益々の発展をお祈りして、答辞といたします。



KSC グラウンド・ゴルフクラブ

“やってみよう！グラウンドゴルフ”

国際 28 期 小山 博

グラウンドゴルフ（グラウンドゴルフ）は昭和 57 年に考案されたスポーツで、ホールポストやコースを自由に設定できるので、河川敷、運動場、公園などで気軽にプレーできます。

皆さん、ゲートボールは、高齢者のスポーツとして耳にした事があると思います。どう違うのかというと、ゲートボールはコートに規格がある為、専用コートが必要になります。それと、ゲートボールはチームプレーでグラウンドゴルフは個人戦と大きな違いがあり、チームのメンバーに迷惑を掛けずに楽しむことが出来ます。ルールも簡単で、高度な技術が無くてもプレーできるようになっているので、どんな人でも手軽に始められ、初心者でも楽しくプレーできるのが特徴です。

KSC グラウンド・ゴルフクラブでは、道具類も一式揃えていますので、手ぶらで参加される方も多いです。多くの女性部員も活躍されています。プレーヤー同士が審判として判断できるため、審判がいないので、ルールさえ守れば仲良く、楽しくプレーできます。



競技会は月 2 回実施しており、8 ホールを 3 ラウンドでスコアを競います。歩行距離は 1Km 強ぐらいの運動量です。月 2 回の内、1 回は順位

により商品が出ます。おもしろいのは、ホールインワンを出すと、家庭用ごみ袋がもらえるのも楽しみの一つです。この日の参加者は 65 名で 26 期生を送る会のため、芝生のきれいな運動広場でのプレーでした。

グラウンドコンディションが良いため、ホールインワンのごみ袋を持って帰る人が続出。

そんな楽しいグラウンド・ゴルフクラブです。



KSC インターネットクラブ

“カレッジでは必須の当クラブに入会を”

健康 28 期 松本 一郎

当クラブは名前からしてインターネットを検索して楽しんでいると思われがちですが、現実には重要な役目を果たしております。

その一つは、シルバーカレッジのホームページ内「学園生活」の紹介です。月単位でクラブの例会・広報の掲載の依頼があり、対応させていただいております。年度末・新学期は各クラブからの訂正・改定の依頼を受け、全員で取り組み、WEB 上の基本言語（HTML、CSS）を勉強し、時間外でも作成し、完成させて満足感を味わっています。

そして二つめは、10 月の学園祭のスケジュールと演目紹介です。学園祭の演目紹介を出演クラブの代表者と打ち合わせして、パワーポイントを作成することです。この準備はほとんど夏休み期間から始まり、9 月中旬には原案を作成しています。そして、学園祭前まで色々と各出演クラブからの修正提案に沿ってパワーポイントを修正し、差し替えをして満足していただいております。

当クラブは、ほぼ毎週火曜日と金曜日に学習室 7 で活動予定表通りに学習を行っております。

全くの初心者が入部しても、「できるホームページ」や「できるパワーポイント」の教本を基に、テキストの作成や動画制作などは、一から指導員のアドバイスを受けながら完成度を高めて、和気あいあいと楽しく習得できます。

クラブ員一同で切磋琢磨して頑張っておりますので、ぜひ当クラブに入会の上ご協力をお願いいたします。



KSC 人形劇「ゆめ」

“可愛い子供たちに夢とやさしさを、ご高齢者の方々には
懐かしさと癒しをプレゼント”

健康 28 期 外池 兼二

人形劇「ゆめ」は私たち 28 期が入学したときは休部中でした。卒業されたOBの献身的な勧誘活動で 1 年生ばかり 6 名が入会する事になり、6 月にはボランティアグループの一員として活動を開始する事になりました。まずは、OB より人形を操る黒子のためのかぶり物、黒手袋を渡され、6 名で活動できる演目の「3 枚のお札」（秋田地方の民話）の台本をいただき、OB の上演ビデオを見て、10 月の学園祭での上演を目標に練習を開始しました。

そして、神戸市各区の社会福祉協議会、以前先輩が公演された所にクラブ復活の挨拶状を郵送し、カレッジ内だけでなく、外部にも正式に活動を開始したことを通知した事により、中途半端な活動でなく本腰を入れた活動・練習をする事になりました。OB のビデオを見て、CD の音声に合わせた人形の動き、お互いに意見を言い合いみるうちに上達していきました。学園祭での初舞台、台詞も録音なので気楽に、かつ黒子スタイルのため、あまり緊張せず大胆に演技ができ無事上演、これで自信がついたか役者気分になりました。そして、クラブ復活の挨拶状を郵送したおかげで、12 月には外部での上演依頼があり、3 歳から 6 歳くらいの子供相手のキッズルームでの上演ではお子さんからかけ声が出て、非常に楽しく上演でき、反対にわれわれが元気をもらう

上演になりました。

また須磨区の地区活動での上演も無事こなし、今年 3 月には神戸市北区社会福祉協議会

の主催されたミニライブ（ベルトス 3 階すずらん広場）にも出演し、ますます楽しいクラブ活動になりました。

原則として週 1 回練習に励み、毎年 1 作ずつ新作にチャレンジします。



神出自然教育園支援グループ

“孫の世代のために”

園芸 27 期 大取 哲夫

神出自然教育園は神戸市の施設で、神戸市西区にあり、主に神戸市の小学生が自然観察、農作業体験をします。このグループは、園芸の現役学生と卒業生、福祉と花の会、わ西区会で構成されており、卒業生は現在 19 期から 26 期までの方がおられ、総勢 300 名を超える大所帯となっています。

ここには 10 名ほどの職員の方が働いておられますが、膨大な作業をこなすには人手不足の感が否めません。わたしたち 8 名が 2 時間ほど作業した量が、丁度職員 1 人の方の 1 日分の作業量になるようです。

支援グループは子供の活動の下準備をするのが主な仕事で、多岐にわたっています。

以前キャベツの苗を植えたことがありますが、これは食べるためではなく、春に虫眼鏡で青虫の観察をするのが目的でした。秋には恒例の芋掘りがあり、幼稚園児や保育園児で賑わっています。その芋掘りのあとに残ったさつまいもの蔓をクリスマス用リースの材料になるよう手入れをしたこともあります。稲刈りの後に残った藁を、美術の教材に加工することもありました。

孫の世代の小学生たちが生きた教材を目の当たりにして、心豊かな子供に成長してくれば、わたしたちの活動も意味のあるものと思っています。



苺の葉摘

グループわ だより

ユニバーサルカレッジ閉講式（2月12日）

特別支援学校を卒業して就労する障がい者が、講義や部活動などを通じて一般教養を身に付け、仲間作りもできる生涯学習の場「KOBE しあわせの村ユニバーサルカレッジ」が昨年7月24日から6回シルバーカレッジで開催されましたが、この度その閉講式が開催されました。



健康クラブ増進セミナー（2月23日）

シルバーカレッジにて、「しあわせの村健康倶楽部」による第5回健康増進セミナーが開催されました。49名の方が

参加され、健康についての講演を、楽しく聴講。また、一部の方は、スマホ運動の体組成計、血圧計を体験するためアプリにもトライしました。

ユニバーサルフェスタ（3月12日）

しあわせの村で開催されました。体育館では、車椅子バスケットや、盲導犬の展示等が行われました。グループわでは、小学生以下向けに、ターゲットボールと輪投げを行い、こどもたちは最高得点を目指して必死にボールを投げていました。グループわは、これらの活動をサポートしています。



グループわと一緒に活動しませんか。

O Bが活動しています。

在学中でも入会可能・大歓迎です！

活動の詳細は、webサイトへ



上野 直哉先生のジョイフルクッキング

ロカボ(緩やかな糖質制限)料理:塩豚のうずみ豆腐



糖質量 1人前 16.6g

《材料》4人前

豚バラ（ブロック） 200g
木綿豆腐 300g
蒸し大豆（市販品） 80g
せり 8本
米 1/2 合

《調味料》

塩 小さじ 2/3
昆布 少々
水 1,500cc
サラダ油 少々
柚子胡椒 少々

《作り方》

1. 塩豚を作る。豚バラ肉に塩をよくすり込んで、ラップをして冷蔵庫で3日程おく。出てきた水は捨てる。
2. 木綿豆腐は、一口大に切り、米は洗って水を切り20分以上おく。
3. 塩豚を5mm位の厚みに切り、水と昆布を入れた鍋に加え、強火にかける。
4. 沸騰しても、強めの火加減でグラグラと20分、時々アクを取りながら煮込む。
5. 昆布を取り出して米を加え、更に10分グラグラと煮る。
6. 米が柔らかくなってきたら、火を弱め、豆腐を加えて10分、その後大豆を加えて5分煮る。
味が薄い場合はここで調える。
7. 器に盛り、ゆでたせりなど青菜をのせる。好みで、柚子胡椒や生姜を添えても良い。

《注意事項》

- ・1食あたり 20～40gの糖質制限が望ましい。

（食文28期 西浦 哲雄）

《俳句クラブ》

【兼題】当季の雑詠



こころよき茶筌の音や春惜しむ

谷口 裕

鳥帰る無辺の湖を残しつつ

大高 松男

梅の香や麓は牛の息遣い

中井 芳樹

たんぽぽを手折れば青き香りかな

戸田 文章

足止めて街角ピアノ寒明くる

貞荊 茂

古雛喜怒哀楽は胸の内

佐野 喜代美

春光を浴びて老女の笑い皺

佐野 喜代美

春霞三重の塔抱きけん

山田 浩子

免疫を上げる落語の伊勢参り

千足 恵美子

白樺の風の声聞く達治の忌

千足 恵美子

《川柳くらぶ》

題「自由句」



夢の中母の温もり抱く毛布

千足千

きつとまた逢えると信じ待つ駅舎

千足千

芋虫ころり背中のおとこ皆ころり

千足千

警告を鳴らし地球が揺れている

千足千

燃え尽きた愛は真つ赤な灰になり

千足千

流水が鳴る人の心を凍らせて

千足千

辛いけどいつか煙と灰に化け

吉田謙

耳の内セミと鈴虫鳴き止まず

吉田謙

鐘が鳴るマリアか除夜かお迎えか

吉田謙

きつと帰る決めたふる里猿が棲み

吉田謙

哀れだね腹の太さに勝てぬゴム

吉田謙

《応募作品》

短歌

野田 悦治（生環26期）

かつてはね鬼畜米英と言ったかな

ウクライナにもいつかこんな日を

川柳、俳句

村田 全康（生環27期）

100年の恨み正当化する北の隣国

紛争の影響ジワリと物価高

反射板大きなカバンの新入生

エンジンは昭和世代で終わりがち

寺尾 隆志（美工28期）

母の日に霞んでいるよ父の日は

新部員昔の上司起立礼

ナースほど優しくないと我が妻は

俳句・川柳募集中！

投稿はこちらから



【歓送交流会】3月1日及び14日～16日に26期生各コースの歓送交流会がカレッジホールで行われました(写真16頁)。

健康福祉/健康ライフコース 28期 木野島 公子
平均年齢72歳、「思いいっぱい・元気いっぱい」を実践されたお姿は「人生100年時代」の活力あふれる生き方の提示でした。「3年間の思い出映像」にまとめられたカレッジでの充実した学園生活の様子は私たち在校生の道標です。会場全員で体を動かした「いきいき体操」は卒業生・在校生が一体となった素晴らしい時間でした。ニロソツのトランペットによる「蛍の光」により歓送交流会は晴れやかに締めくくられました。

国際交流・協力コース 28期 谷口 清
質疑応答形式のプログラム3番、グループ学習裏話を紹介します。海外渡航ができなかったことは残念でしたが、国内でのフィールドワーク(旅行や飲食)を楽しんだこと、運営上では、意見を否定しないことに留意し、チームワークを重視したことなどが報告されました。過去のリーダーは男性ばかりでしたが、女性リーダーの活躍を期待したいとの意見がありました。

生活環境コース 28期 関 信夫
グループ学習も終わって落ち着いた26期生の姿、粛々とした会の進行のなかで、3年間の学び・交流、所属していたサークルの演技に今後を託す思い、そして今後の人生に思いを巡らしたことだろう。生活環境コースでの学習は地域への還元に直結し、グループ学習で底力をつけられたとの来賓の挨拶があった。時の流れは速く、3年生の姿に、2年後の自身を重ねた。林住期から遊行期をどう生きるのか、この共通の課題を抱える同胞の今後に心からエールを送ります。

美術・工芸専攻 28期 山本 昌昭
3年間の集大成であるグループ学習の発表も終え、数々の力作である卒業制作作品の成果も展示されました。限られた時間の

なかで、懐かしいフォークソングを聞きながら、また思い出スライドを見ながら、楽しかった3年間の学園生活に思いを巡らせたことでしょう。卒業という言葉はなにかさみしいものがあります。卒業は終わりではなく、新たな旅立ちです。これからも仲間と学び続けて下さい。

音楽文化専攻 28期 仲川 一美
音文の歓送交流会は各学年3曲ずつ、合唱を行いました。練習の成果発表です。結果には実力が如実に表れました。2年生のハーモニーは美しく、3年生の歌声には感動すら覚え、涙が出そうでした。それに比べ1年生はまだまです。つづいて、斉田先生・松村先生の素晴らしい歌声もご披露いただきました。

私たちも2年後にはクラス1つになった合唱が出来るように、良いチームワークを築いていきたいと切に思いました。

園芸専攻 28期 本橋 平和
26期生が着席されたテーブルには、支援活動とともに汗を流した神出自然教育園から届けられたサイネリアの花鉢が飾られていました。花言葉は喜びでこの日にふさわしく思いました。思い出のスライドを拝見し、コロナ禍の3年間でしたが、登校等の制約の中、充実されていたと感じ嬉しく思いました。カレッジで得られた交流や知見を活かされ、これからのご活躍を祈念いたします。

食文化専攻 28期 中山 久憲
3月15日に26期生28名の歓送交流会が開催されました。卒業生から「3年間の思い出」として、さまざまな時期での料理の成果を伝承の意味を込めて写真等で説明をいただきました。最後に在校生から、4日前に作り、前日にかわいく包装したクッキー、パウンドケーキ、ブラウニーの詰め合わせが贈呈されました。食文の伝統がしっかり引き継がれたことを物語るものでした。

トピックス

ケナフの会 県立三木北高校との交流が神戸新聞に！

ケナフの会と三木北高校総合科学環境研究部とは2020年5月にケナフの種を提供して以来のご縁で、昨年には同高校が育てたケナフの茎を炭焼きすることで協力、脱臭炭(写真右)に加工されて三木市社会福祉協議会へ寄贈されました(写真下)。



このことが
2021年
12月9日
の神戸新聞
に報道され
ました。



完成した脱臭炭を贈る三木北高校総合科学環境研究部員ら(左)とケナフの会(右)のメンバー(三木市社会福祉協議会)

施設利用委員会(RBC)からのお知らせ

◆2022年度委員の選任

代 表	赤穂谷 憲一(生環28期)
副代表・総務担当	外 池 兼二(健康28期)
ク ラ 協 担 当	鷲 尾 久 義(食文28期)
ボ ラ セ ン 担 当	大 和 一 郎(国際28期)
シ ス テ ム 担 当	関 信 夫(生環28期)
シ ス テ ム 担 当	谷 口 清(国際28期)

◆施設利用に関する各種連絡

施設利用申込担当者の変更・施設利用についてのご相談など、各種連絡はホームページ欄からお知らせください。

施設利用委員会ホームページ
<https://ksc-sofu.net/rbc>



事務局だより

◆学長の退任及び後任

〈退任〉3月31日付 服部 祥子
〈後任〉4月1日付 前田 潔

◆事務局職員の人事異動

〈退任〉3月31日付 事務局長 後藤 徹也 澤田 靖
マネージャー 横川 文彦 堀 茂
学生支援リーダー 藤原 三喜男 鶴崎 研一

◆事務局職員就任のあいさつ

《澤田 靖》

この4月事務局長として着任いたしました澤田です。前職は神戸市北神担当区長でしたが、北区にあるシルバーカレッジで仕事をさせていただくのも何かの縁と感じます。

「再び学んで他の為に」を実践なさろうとする皆さまと共に、私自身もお役にたつべく一生懸命頑張っている所存です。何とぞよろしくお願い申し上げます。

《堀 茂》

4/1 付でカレッジマネージャーとして着任しました堀です。入学式では、希望に胸を膨らませた新入生たちを見て私自身も清新な気持ちになりました。また、少し授業を聴講しましたがレベルの高さ、やる気を見てとても触発されました。

学生たちがスムーズに通学、受講できるようスタッフとともに精一杯サポートしていきたいと思います。よろしくお願いします。《鶴崎 研一》

4月より着任しました、学生支援リーダーの鶴崎です。縁

あって、このシルバーカレッジで勤務することになり、カレッジに通われる皆さんと出会えたことをうれしく思います。

国民教育の父と称される森信三先生は「人間は出会うべき人に必ず会える。一瞬遅からず一瞬早からず」という格言を残しておられます。私にとって、カレッジに通ってこられる皆さんと出会うことで、新たな自分を発見できるのではと思っています。皆さんもこのシルバーカレッジで、新たな自分を発見してください。

◆感染防止対策への協力をお願い

学生の皆さまには、感染防止対策にご協力をいただいています。体調管理、手指衛生、3密の回避(特に食事のとき)、マスクの着用、検温など感染防止対策を励行し、引き続き安全で安心な学園生活にご協力をお願いいたします。

◆台風などにおける気象警報発表時の対応

午前8時の時点で神戸市域に気象警報が発表されている場合は休校です(学生便覧Ⅱ学習の手引き、休校の項参照)。なお、休校の際は、当校のホームページの「緊急のお知らせ」で連絡します(<http://kobe-sc.org/>)。個別の連絡は行いませんので、テレビやインターネット等の気象情報に注意してください。

◆駐車場定期券の取り忘れにご注意

駐車場定期券をご利用いただいておりますが、料金所で定期券を機械に挿入したあと、取り忘れて定期券を紛失するケースが複数発生しています。すでに制度開始後1年近くたちますが、まだ減ってはおりませんので、ご利用時には十分ご注意ください。なお定期券の再発行には千円が必要です。

図書室だより

29期生の皆さま、ご入学おめでとうございます。これからの学園生活が楽しく充実したものになりますように。残念なことにまだ新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。図書室では感染防止にできる限りの措置を講じていますが、変異株によるコロナにどこで感染するか分かりません。各自でできる防止対策を怠らないようお願いいたします。

さて、図書室では専門書だけでなく、新聞、雑誌など幅広い分野の書籍等をそろえていますので、きっと満足されるものと思います。新入生の皆さま、ぜひ一度、お立ち寄りください。

4月27日(水)から4月29日(金)、5月3日(火)から5月5日(木)、5月23日(月)から5月26日(木)ま

では閉館となります。閉館期間中は、返却する貸出書籍を事務局においてお預かりします。

<新着図書>

「ロシアトヨタ戦記」

著者 西谷 公明 出版社 中央公論新社

「植物のなishの超能力」

著者 田中 修 出版社 小学館

「植物のいのち」

著者 田中 修 出版社 中公新書

「世界一わかりやすい美術鑑賞ドリル」

著者 いとはる 出版社 サンマーク出版

「野村重存「水彩スケッチ」の教科書 この一冊で、スケッチと着色の技術がすべてわかる」

著者 野村 重存 出版社 実業之日本社

編集後記

緑に囲まれたシルバーカレッジも新緑の季節を迎え、新入生や新学年の皆さまもはつらつとした気持ちでカレッジライフを楽しまれていると思います。5月号はいつもの情報発信に加えて卒業式や卒業生の歓送交流会、入学式や新入生の入学感想などカレッジライフの節目に当たる行事の紹介をさせていただきました。

編集委員会として卒業式の取材に立ち会いましたが、在校生の一人として懐かしも新鮮な気持ちになりました。

情報誌「爽風」は年7回、大きなカレッジ行事やコース専攻のグループ学習発表会、クラブ活動、ボランティア活動などの具体的な事例やトピックス情報をお届けしています。

皆さまのカレッジライフのお役立ちになるような情報発信に努めていますが、先回の4月特別号、今回の5月号から新2年生が3年生のサポートをいただいて編集活動を担っていくこととなりました。

大変ではありますがやりがいを感じます。

情報誌「爽風」は神戸市シルバーカレッジのホームページのトップ面の情報誌「爽風」のバナーより過去の紙面のPDFデータもご覧いただけます。この情報誌「爽風」を読んでいただき、皆さまのカレッジライフの一助になれば幸いと存じます。

情報誌編集委員会

第 26 期生 歓送交流会

2022 年 3 月 1 日及び 14 日～16 日



健康福祉/健康ライフコース
(いきいき体操風景)



国際交流・協力コース (パフォーマンス)



生活環境コース (パフォーマンス)



美術・工芸専攻 (記念写真)



音楽文化専攻 (卒業生退場風景)



園芸専攻 (記念品) 食文化専攻

第 26 期生 卒業式

2022 年 3 月 23 日



卒業生受付風景



卒業記念品贈呈



各クラス卒業証書授与

第 29 期生 入学式

2022 年 4 月 8 日



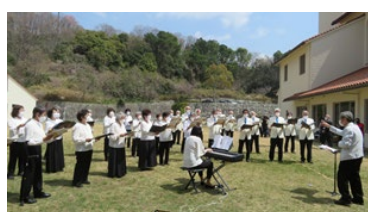
入学式受付風景



新入生代表あいさつ



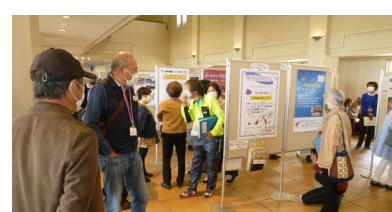
音文 27 期生校歌四部合唱



クラブ勧誘パフォーマンス



クラブ勧誘パフォーマンス



クラブ勧誘ポスター掲示風景